

～ krew安心構築ガイド ～

- 製品仕様／制限事項のポイント解説
- 仕様を考慮した構築の工夫
- トラブルを避けるための注意事項

製品仕様や制限事項を中心に、「パートナー様からお問い合わせが多い事項」「構築・運用に大きく影響する事項」をピックアップしています。

ヘルプなどの公開資料では分かりにくいポイントを取り上げていますので、全体をご一読いただき、ご提案や構築時の確認用資料としてご活用ください。

2023-09-01版からの変更点

[全製品共通]

- ・ P.5 セキュリティ関連情報を追加

[krewSheet]

- ・ P.10 Xrossモードが累計計算に対応したので、「累計計算に対応していない」の項目を削除
- ・ P.11 カスタマイズ一覧の作成／設定の運用に関するページを追加

[krewDashboard]

- ・ P.16 カスタマイズ一覧の作成／設定の運用に関するページを追加

[krewData]

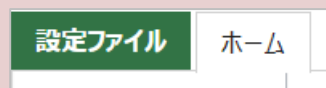
- ・ P.23 リアルタイム実行方法について、krewSheetからの実行する追加機能について記述を追加

【全製品共通】 krew設定のバックアップ

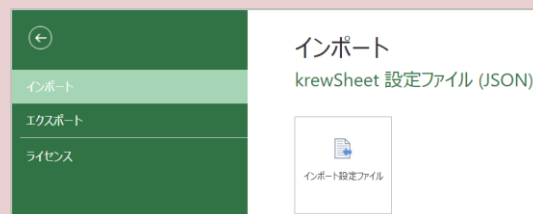
設定ファイルをエクスポートすることで、krewの設定状態をバックアップしておくことができる。

krew設定が消えてしまった、破損してしまった、などの場合に復旧できるように運用開始時には必ず設定ファイルをエクスポートし、管理しておく。

krew設定画面左上の「設定ファイル」からエクスポート／インポートできる



krewSheet／krewDashboardの場合



krewDataの場合



※インポート方法を「再作成」にすると既存の設定をすべて削除してインポートファイルに含まれるフロー設定だけになるので注意が必要。

【全製品共通】セキュリティ関連情報

製品サイトの[セキュリティ関連情報ページ](#)で、以下の情報が公開されている。

- ・取得している認証
- ・サービスレベル目標（SLO）
- ・セキュリティ資料（ホワイトペーパー、セキュリティチェックシート）

お客様独自のセキュリティチェックシートに回答が必要な場合、上記のセキュリティ資料をご参考いただき、不明点や追加確認が必要な項目については個別にご相談いただく。



Sheetモードで扱えるレコード数／APIコールについて（※Xrossモードではこの制限は適用されない）

1ページの最大表示数 = 500レコード。（1APIコールで500レコードを取得）

アプリ内のレコード数によらず、一度に表示対象にできるのは最大1万レコード（20ページ）まで。

※表示時のフィルタ条件／ソート条件での上位1万レコード。

集計行／Excelエクスポート／数式保存など、全レコードを対象にした機能も「表示対象のレコード」にのみ適用される。

表示対象のレコード数が1万レコードを超えていると警告メッセージが表示される。

The screenshot shows the application's search and filter panel. At the top, there are dropdown menus for '顧客 次のキーワード...', 'ステータス 次の...', '都道府県 次のい...', '製品区分 次のい...', '部門 = (等しい)', and '営業 = (等しい)'. Below these are '検索' and 'クリア' buttons. A toolbar contains icons for '全画面表示', '再読み込み', '保存', '追加', '複製', '削除', '検索', 'フィルタ', and 'エクスポート'. The status bar shows '1 - 500 (10000件中)' with a yellow warning icon. A table below shows columns for 'レコード番号', '日付', and '店舗地区'. A red box highlights a warning message: '表示対象のレコード数が、10,000レコードを超えています。krewSheetに表示可能なレコードは、絞り込み条件とソート条件に合致する上位10,000レコードです。目的のレコードが表示されない場合は、これらの条件を変更してください。' Another red box highlights the warning icon in the status bar with the text 'エラーマークにマウスオンで表示'.

表示対象に目的のレコードが含まれていない場合は、検索パネル／項目フィルタなどで表示条件を変更する。

列ヘッダの▼アイコン（会社名 ）で指定できる「項目フィルタ」のリストは

「1ページ目先頭から500件のユニークな項目＋現在ページの項目」になっている。

「読込」クリックごとに500件ずつユニークな項目がリストに追加される（APIリクエスト発生）。

列設定で「項目フィルタを自動的に読み込む」にすると自動的に項目を読み込む（APIリクエスト発生）。

※「自動読み込み」動作も最大1万レコードが対象。

別ページに切り替えた後で同一の「項目フィルタ」を開いた場合、項目の再読み込みは発生しない。

ページ更新などの後で再度「項目フィルタ」を開くと再読み込みが発生する（APIリクエスト発生）。

The screenshot shows the '項目フィルタ' (Item Filter) panel. It has a search input field with the text '検索'. Below it are checkboxes for 'すべて選択' (checked) and 'すべて解除' (unchecked). There are two dropdown menus showing '6906' and '0911'. At the bottom, there is a warning message '一部の項目は表示されません。' and a '読込' (Load) button highlighted with a red box.

レスポンスの低下を避けるには

表示列数を減らす。

列幅を固定値にする。

条件付き書式／数式列／集計行など、表示処理や計算を伴う設定を減らす。

※数式列に対して集計行を設定すると処理が重くなりやすい。
(表示中のページ以外も数式列の計算対象になるため)

Xrossモードに関する参考 (1)

「行列変換ビュー」でレコード登録（対応するレコードがないセルに値を入力）した場合、ビュー上に配置されているフィールドのみ自動入力される。

（例）右図のビュー上では「金額」フィールドが入力対象。
「製品名」「見込み時期」も配置されているので自動入力。
「会社名」など配置されていないフィールドは空白。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	見込み時期 ▼									
2	製品名 ▼	2018年6月	2018年7月	2018年8月	2018年9月	2018年10月	2018年11月	2018年12月	2019年6月	総計
3	Garoon		12,345		400,000		240,000	640,000		1,292,345
4	kintone		645,000	45,000	150,000	3,172,500	997,500	3,900	7,500	5,021,400
5	Office	80,000			300,000	10,000	80,000			470,000
6	総計	80,000	657,345	45,000	850,000	3,182,500	1,317,500	643,900	7,500	6,783,745
ビュー上で入力してレコード登録										
詳細										
	会社名 ▼	製品名 ▼	見込み時期 ▼	単価 ▼	ユーザー数 ▼	金額 ▼				
1		Garoon ▼	2018-07-01 ▼			12345				

Xrossモードに関する参考 (2)

「行列変換ビュー」は「小計の総計」「総計の総計」が計算されない。
数値フィールドを表形式でレコード登録／編集する場合は
「ピボットビュー」の方が適している。

[行列変換ビュー]				[ピボットビュー]			
10	3,200,000	3,500,000	38,700,000	1,000	3,200,000	3,500,000	38,700,000
10	2,600,000	3,000,000	32,000,000	1,000	2,600,000	3,000,000	32,000,000
10	9,400,000	10,500,000		1,000	9,400,000	10,500,000	114,400,000
10	2,600,000	3,000,000	32,000,000	1,000	2,600,000	3,000,000	32,000,000
10	3,200,000	3,500,000	38,700,000	1,000	3,200,000	3,500,000	38,700,000
10	2,200,000	2,500,000	27,300,000	1,000	2,200,000	2,500,000	27,300,000
10	8,000,000	9,000,000		1,000	8,000,000	9,000,000	98,000,000
10	25,800,000	29,000,000		1,000	25,800,000	29,000,000	315,100,000

「カスタム小計」は行方向／列方向のどちらにも対応している。
数式で参照する値はフィールドコードでの指定となり、
「小計」や「総計」のようにフィールドコードを持たない個所は参照できない。

(例) 右図のカスタム小計を行う場合、以下のような数式は記述できない。

営業 1 G 構成比 = [営業 1 G 計] / [総計]

以下のように「小計」「総計」に相当する数式を記述する。

営業 1 G 構成比 = SUMIF(部門,"営業 1 G",予算[Sum])/SUM(予算[Sum])

※フィールドタイプに合わせて「予算[Sum]」など指定可能な項目が数式設定画面に表示される。

1	2021年			
2			4月	5月
3	営業 1 G	加藤	3,000,000	2,600,000
4		山田	3,500,000	3,200,000
5		斉藤	3,000,000	2,600,000
6	営業 1 G 計		9,500,000	8,400,000
7	営業 1 G 構成比		32.8%	32.8%
17	営業 3 G 構成比		31.0%	31.0%
18	総計		29,000,000	26,000,000

列名:

営業
年月[month]
年月[year]
部門
予算[Sum]

数式:

SUMIF(部門,"営業 1 G",予算[Sum])/SUM(予算[Sum])

krewSheetの設定権限について

krewSheetの適用対象は「カスタマイズ形式」の一覧。
この一覧の作成／設定にはシステム管理権限が必要。

アプリ作成担当者にシステム管理権限が付与されていない場合は、以下の点を考慮して運用を検討する。

- ・ カスタマイズ形式一覧の作成／設定は、システム管理権限ユーザが対応する必要がある。
- ・ カスタマイズ形式一覧が作成済みのアプリテンプレートを作っておき、これを使ってアプリ作成することで、アプリ作成ごとにシステム管理権限ユーザに依頼することを回避できる。
（ただし、一覧名などの設定変更はシステム管理権限ユーザの対応が必要）
- ・ krewSheetでソート／フィルタの初期設定が可能なので、カスタマイズ形式一覧で設定しなくてよい。
これによりシステム管理権限ユーザの対応を低減できる。



レコード数/APIコールについて

集計対象のレコード数の上限はない。

グラフに設定したフィルタ条件に関係なく、集計元アプリのすべてのレコードを取得した上でフィルタ条件を適用して各グラフを表示する。

集計対象のレコード数が多い場合はAPIコール数に注意する。

※APIコール数の基本的な考え方：1APIコールで500レコードを取得

- ①フィルタ条件を設定していない場合：集計元アプリの全レコードを対象にAPIコール数を計算
- ②フィルタ条件を設定している場合：①+フィルタ条件に該当するレコード数によるAPIコール数（対象レコードを抜き出す処理）

「全体検索」機能を使うことで取得するレコード数を低減することができる。

異なるグラフが同じアプリを参照する場合は、レコード取得の処理は1回。

参照アプリが一緒にフィルタ条件が異なる場合は以下のAPIコールが発生する。

- ・アプリの全レコードを取得するAPIコール
- ・グラフそれぞれについて、フィルタ条件に該当するレコードを取得するAPIコール

レコード再取得（APIコールが再度発生）の考え方は以下。

- | | |
|-------------|---|
| [再取得が発生] | <ul style="list-style-type: none">・ブラウザのリロード、「再読み込み」ボタンのクリック・フィルタ条件の変更（変更後の条件に該当するレコードのみ再取得） |
| [再取得は発生しない] | <ul style="list-style-type: none">・ページ切り替え後もレコード取得済みアプリのみ参照している・スライサーやタイムラインによる集計条件の変更 |

デザイン画面ではテストデータとして最大500レコードを取得して集計表示するため、実際の集計結果とは異なる。

レスポンスの低下を避けるには

「全体検索」で取得するレコードを低減しても集計対象のレコードが多い場合、krewDataによりサマリーしたデータを別アプリに出力し、これを参照して集計することも検討。

1 画面のグラフ数が多くなりすぎないように複数ページに分ける。

条件付き書式／集計フィールドなど、計算を伴う設定を多くしない。

(参考) 集計設定／PCスペック／ブラウザ／回線状況などの影響によりばらつくが、2～3万レコードを対象とした集計では2～3秒程度かかることが多い。

よく使われる機能の参考

「年度の開始月」を設定した場合、日付フィールドの「年」を「年度」に読み替える。
単位の記述が年度にならないため。これにより表示日付と実際の日付が一致しない場合がある。

(例) 年度の開始月 = 4月 { 集計の日付表示 = 2022年4月 → 単位の読み換え = 2022年度4月 → 実際の日付 = 2022年4月
集計の日付表示 = 2022年1月 → 単位の読み換え = 2022年度1月 → 実際の日付 = 2023年1月

達成率や前年比など比率の計算は「集計フィールド」で対応する。

(例) 営業 1 G 計の達成率「54.8%」を計算したい。

達成率に数値フィールドを指定した場合は計算できない。
→ 「各営業の達成率の合計 = 61.0% + 45.5% + 59.7%」となってしまう。

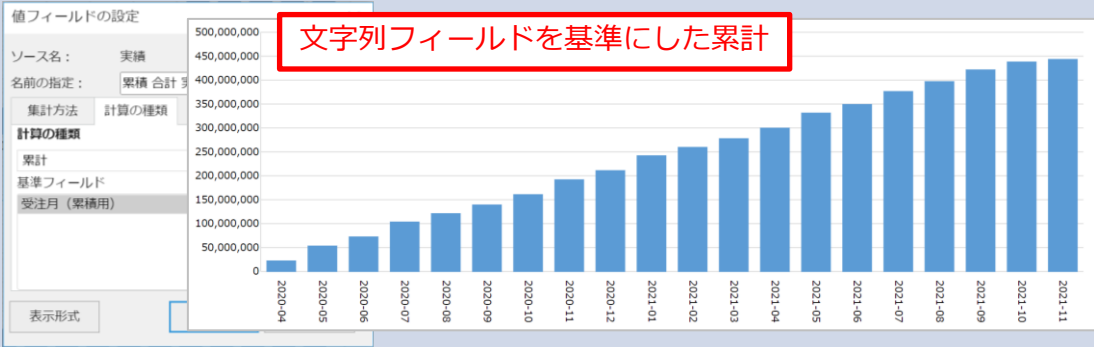
達成率に集計フィールド（式 = 実績 ÷ 予算）を設定する。
→ 「実績合計 ÷ 予算合計 = 56,230,000 ÷ 102,700,000 = 54.8%」のように
集計結果に基づく計算ができる。

年度	部門	営業	2021年		
			予算	実績	達成率
	営業 1 G	加藤	32,000,000	19,530,000	61.0%
		山田	38,700,000	17,610,000	45.5%
		斉藤	32,000,000	19,090,000	59.7%
	計		102,700,000	56,230,000	54.8%

「累計」を集計する場合、日付フィールドを基準にすると年の区切りで累計がリセットされる。
年をまたぐ場合は、文字列フィールドで「YYYY-MM」のような値を持たせ、これを基準にする必要がある。

[方法 1] 文字列フィールドの自動計算 → DATE_FORMAT(日付フィールド, "YYYY-MM", "Etc/GMT")

[方法 2] 集計用データ作成時にkrewDataで出力



krewDashboardの設定権限について

krewDashboardを一覧として表示する場合、対象は「カスタマイズ形式」の一覧。
この一覧の作成／設定にはシステム管理権限が必要。

アプリ作成担当者にシステム管理権限が付与されていない場合は、以下の点を考慮して運用を検討する。

- ・ カスタマイズ形式一覧の作成／設定は、システム管理権限ユーザが対応する必要がある。
- ・ カスタマイズ形式一覧が作成済みのアプリテンプレートを作っておき、これを使ってアプリ作成することで、アプリ作成ごとにシステム管理権限ユーザに依頼することを回避できる。
（ただし、一覧名などの設定変更はシステム管理権限ユーザの対応が必要）
- ・ ソート／フィルタはkrewDashboard側で設定するため、カスタマイズ一覧での設定は必要ない。



krewData設定用アプリの運用について

入出力アプリでフィールド追加やフィールドコードの変更などをした場合、
「krewData設定を保存 → 画面リロード」することでフロー設定画面に変更が反映される。

※フィールドコードを変更すると入出力アプリのフィールド設定がクリアされるため再設定が必要。

krewData設定用アプリにはスケジュール実行のログがレコードとして保存される。

リアルタイム実行のログは専用アプリを作成して保存先に指定する。

※フロー一覧画面の「ログ出力先アプリ」で設定。

krewData自体に処理結果の通知機能はないため、kintoneアプリでログのレコードに対する通知設定を行う。

特に注意が必要な事項

同一のkrewData設定用アプリを複数ユーザで同時編集しない。

※それぞれの保存が反映されないことがあるため。

複数のkrewData設定用アプリを作成し、それぞれ個別のkrewData設定用アプリで作業する。

スケジュール設定や実行フロー設定が有効化された状態でkrewData設定用アプリを削除しない。

※スケジュール実行設定／リアルタイム実行設定を解除できなくなるため。

上記の状態になってしまった場合は[ナレッジ](#)を参考の上で[技術サポート](#)にご連絡いただく。

レコード数／APIコールについて

入力／出力対象のレコード数には、それぞれ以下の制限が適用される。

- ・ 1 フロー内の入力アプリ（出力アプリ）すべての処理対象レコード数をカウント
- ・ スケジュール実行：上記のレコード数が200,000件まで（即時実行の場合は50,000件まで）
リアルタイム実行：上記のレコード数が 10,000件まで

「入力アプリ」コマンドでフィルタ設定すると、処理対象のレコード数を削減できる。

※「フィルタ」コマンドで後からフィルタしても入力レコード数の削減にはならない。

フロー内で「アプリ結合」「テーブル展開」「列－行変換」などのコマンドを使用する際、設定によっては処理途中のレコード数が増えすぎてしまうため注意が必要。

数十万レコード規模になった段階で処理が停止してしまう。

※krewDataサーバのメモリオバフロー。

入力／出力対象のレコード数に応じて、krewData処理のAPIコール数が変動する。

- ・ 1APIコールで500レコードを取得／出力する
- ・ この他にkrewData処理に関するAPIコールが数回発生

（例）「入力レコード：15,000件」「出力レコード：5,000件」の場合

→ $(15,000 \div 500) + (5,000 \div 500) + \text{数回} = 40\text{数回}$ のAPIコールが発生

フロー設定画面ではテストデータとして最大500レコードを取得してプレビュー表示するため、表示に含まれないレコードがある。

「出カアプリコマンド」の出力方法について

[更新]

- ・更新または追加 = ON
 - レコード識別のキーとなるフィールドを設定（複数可）。
出力先アプリに対応するレコードがあれば上書きして更新、なければ新規レコードとして出力する。
基本になる出力パターン。
- ・更新または追加 = OFF
 - 出力先アプリに対応するレコードがあれば上書きして更新、なければ出力しない。
データ修正のみ行う場合はこのパターンを選択する。

※出力時にレコード重複エラー（指定された更新キーでレコードが一意に識別できません。設定を確認してください。重複するキーは[フィールド名]です）になる場合、krewDataで生成したデータ側に更新キーが同じ値のレコードが複数ある。テストアプリに「再生成」で出力して重複確認する。

[再生成]

- ・出力先アプリのレコードをすべて削除し、krewData処理結果のレコードを出力。（データの入れ替え）
- ※出力先アプリと同じアプリを入力アプリに指定しないよう注意が必要。
- 出力処理途中でエラーなどにより処理停止するとデータがなくなった状態になり戻せなくなる。
（戻すための元データ自体がなくなっているため）
- 出力先アプリと異なる入力アプリであれば元データがあるので、再実行することでリカバリーできる。

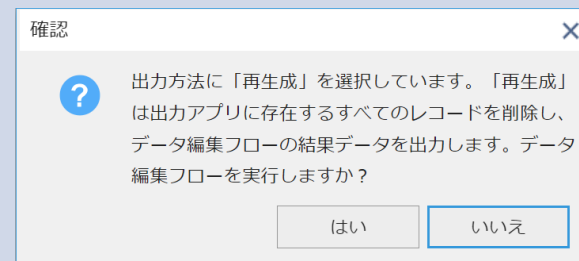
[追加]

- ・krewData処理結果のレコードをすべて新規レコードとして出力する。
- ※案件管理アプリの最新状況を月次で別アプリに追加出力し、案件状況の推移を追うための履歴データとする、などの活用が考えられる。

「即時実行」時の警告メッセージ/エラーメッセージについて

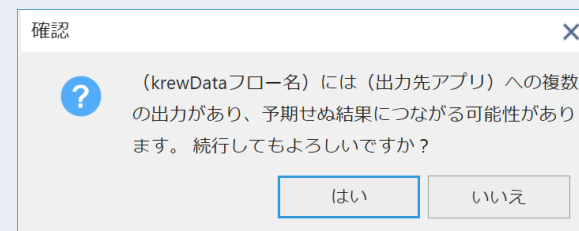
出力アプリコマンドの出力方法に「再生成」を設定していると右のメッセージが表示される。

※前ページに記載のように「再生成」の出力処理では出力先アプリのレコードをすべて削除するので、出力先アプリと同じアプリを入力アプリに指定していると処理エラー時にデータ復旧できなくなるリスクがあるため。



同一フローで、複数の出力アプリコマンドに同じアプリを指定していると右のメッセージが表示される。

※それぞれの処理が同じレコードを更新する場合でも、異なるフィールドを対象にする場合などにはこのメッセージを無視して運用できる。



出力しようとしているデータに更新キーが同じ値のレコードが複数ある場合、以下のエラーメッセージが表示される。

案件集計 | 入力レコード数: 2 | APIリクエスト数: 7 |

実行 ログ

× [(出力先アプリ)] 指定された更新キーでレコードが一意に識別できません。設定を確認してください。重複するキーは 案件名: 株式会社〇〇システムズ です。

※対象のレコードがプレビューに含まれていない場合は、テスト用アプリに「出力方法 = 再生成」で出力してデータを確認する。

フロー構築に関する参考

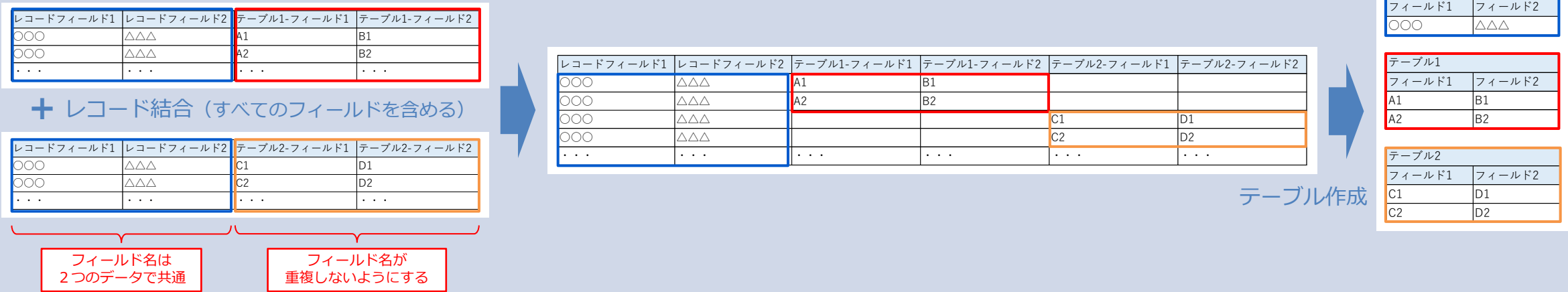
特定のレコードを指定して削除することはできない。
レコードを削除するのではなく、ドロップダウンなどに「無効」を示す値を出力し、「使わないレコード」を識別できるようにする。

SUMのような複数レコードを対象にする関数は使えない。
こうした要件には「グループ化」などコマンドの組み合わせで対応する。

「出力アプリ」コマンドが複数ある場合、出力順は指定できない。
どの順番で出力されても問題がないようにフローを組む必要がある。
順番をコントロールする必要がある場合はフローを分けて実行順を設定する。
スケジュール実行の場合は、前のフローが終わる時間を想定して実行時間をずらしておく。

アプリ間で双方向に出力する構成の場合、同じフィールドを双方向に出力対象にしないことが推奨。
krewDataの出力処理のタイミングによっては、最新状態が表示されておらず、誤った編集をしてしまうリスクがあるため。

テーブルを持つレコード同士のアプリ結合はできない。
複数のテーブルを持つレコードを出力する場合、1回の「テーブル作成」コマンドでテーブル化する。



リアルタイム実行 – 実行方法について

以下の3つの方法でリアルタイム実行を動作させることができる。

- Webhook（レコード編集／追加、プロセス管理ステータス変更などによる実行）
- API実行（カスタマイズボタンによる実行）
- krewSheet一覧画面からの実行

API実行用のボタンを配置するにはJavaScriptのカスタマイズが必要。

[リファレンス](#)（サンプルコードあり）を参考に実装いただく。（※技術サポートの対象外）

※kintone詳細画面からの実行の場合、ジョイゾー様が提供がしている[無償プラグイン](#)によりカスタマイズせずに対応することも可能。

[参考]

Webhookを利用して、カスタマイズボタンによるAPI実行を代替する運用も可能。

リアルタイム実行起動用のアプリを作り、このアプリでのレコード追加でWebhookを動作させる。

※以下のような要件に対応できるメリットもある。

- 見えやすい形で実行履歴を残す。
- フィールドに値を入力させ、フロー実行時にパラメータとして利用することで任意の値を受け渡して実行処理ができる。

krewSheet一覧画面から実行する設定については、krewSheetの「[krewData連携機能](#)」を参照。

リアルタイム実行 – パラメータの利用について

フィールドをパラメータ（「%レコード番号%」の形式）で指定した場合、リアルタイム実行の起動時にkintoneアプリから受け渡されたレコードの値で処理を行う。

※リアルタイム実行の処理時にkrewDataが取得しにくい値ではない。

パラメータを使用した場合、仮の値でプレビュー表示できるよう設定が必要になる。

Webhookが「レコードの削除」「コメントの書き込み」で動作した場合、パラメータは「%レコード番号%」のみ利用可能。

※対応できる要件は限定される。

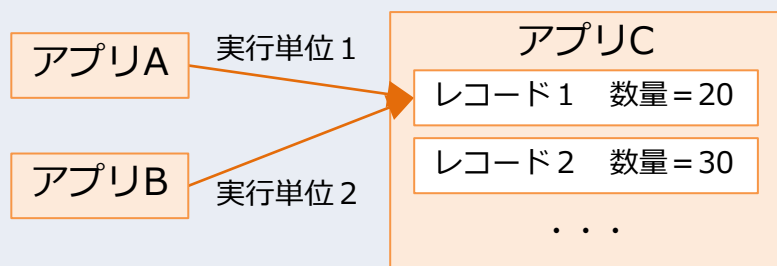
リアルタイム実行 – 同時実行時の動作について

[同時実行時の動作]

- ・ 同一実行単位が連続して実行された時に「要求をキャンセル」と「実行を待機」のどちらにするか設定できる。
- ・ 「実行を待機」の場合は処理待ちとなり、10分超になるとタイムアウトで処理エラーになる。

[複数実行単位による「同一アプリ」「同一レコード」への出力]

- ・ 複数のアプリそれぞれにリアルタイム実行を関連付ける場合、異なる実行単位になる。
この場合は「同時実行時の動作」を適用することができない。
- ・ 複数のアプリからのリアルタイム実行が「同一アプリ」かつ「同一レコード」に出力する場合、
タイミングが重複するとどちらかの結果が反映されず、データの不整合が発生する可能性がある。



(例)

- ・ 実行単位 1 → レコード 1 の「数量に 4 加算」
- ・ 実行単位 2 → レコード 1 の「数量に 7 加算」
- ・ 上記 2 つの処理を行った結果は「数量 = 20 + 4 + 7 = **31**」が正
- ・ 同じタイミングで実行単位 1 と 2 が実行された場合、どちらもレコード 1 の参照値は「数量 = 20」
- ・ 実行単位 1 が先に出力されると「数量 = 20 + 4 = 24」となり、実行単位 2 の出力で「数量 = 20 + 7 = **27**」に上書きされる（出力順が逆の場合は「数量 = **24**」になる）



【データの不整合が発生】

CSVインポート + リアルタイム実行

手動のCSVインポートではWebhookが動作しないため、
「CSVインポート後にすぐkrewDataを実行したい」という要件には以下のように対応する。

[方法 1] 手動のCSVインポート → カスタマイズボタンによるAPI実行などでkrewDataを実行

[方法 2] 1つの実行単位で以下のフローを続けて実行。

- (1) 外部ファイル入力コマンドでCSVファイル取り込み
- (2) 任意のフロー

フローの実行設定に関する参考

スケジュール実行	他のフローの成否と関連付けて実行／停止を判断する機能はない。 以下のような対応は可能。（※日次で処理する運用での対応例） ・他のフローの出力先アプリを参照する入力アプリコマンドを配置 ・上記レコードの最新更新日時が昨日以前の場合は処理対象レコードを0件にする （[グループ化] 更新日時の最大値を取得 → [データ編集＞数式] 昨日以前だったら「停止」、それ以外は空白となるフィールドを作成 → [アプリ結合] 処理対象レコードすべてにこのフィールドを結合 → [フィルタ] 「停止」のレコードを除外）
リアルタイム実行	実行単位内の途中のフローで失敗したら、それ以降のフローは実行されない。
リアルタイム実行	実行単位ごとに5回/分の実行回数制限がある。 これを超えた場合処理待ちとなり、次の1分での処理対象になる。（※処理頻度の高い要件での利用には注意が必要）
リアルタイム実行	複数の実行単位が連続して実行される場合、それぞれの処理対象レコード件数を併せて20,000件まで並行処理可能。 これを超える場合は処理待ちになり、前の実行単位の終了後に処理される。
リアルタイム実行	同ドメインでスケジュール実行が処理されている間は、リアルタイム実行は処理待ちになる。
リアルタイム実行	発生理由によらず、処理待ちが10分超になるとタイムアウトで処理エラーになる。
共通	「krewDataの処理」と「ユーザによる入出力アプリのレコード登録／編集」のタイミングが重複しない運用が推奨。 ユーザによる編集結果が参照されない、出力時にリビジョンエラーになる、などの可能性があるため。

